

ソーシャルファイナンスの時代 ～地域社会を勇気づける信用組合～

第2回



社会貢献のポイント「健康」

まち実践社
代表 村橋保春

ファイナンスは必須社会
インフラか

石垣島で目からうろこの話を聞いた。

石垣島の島民が通貨を使い始めたのは明治維新以降。それまでは自給自足で物々交換を行っていた。海の幸と山の幸の交換、役務と穀物の交換など、その内容が細かく記録に残っている。通貨を使うから先進的であるとは言えない。比率や分量などを個別に評価し相互に納得して交換するということは高度な社会システムである。この段階では、商業も、ファイナンスも必要なかった。ファイナンスを当たり前のように必須の社会インフラとするには無理がある。ファイナンスは社会的に必要とされ支持されて初めて成立するものである。このことを十分に理解しておかなければならない。

秋田県信用組合の目指すところ

社会的収益をもたらす、社会

に貢献することでファイナンスは社会的支持を得る。どのような社会貢献がなされているか。具体的な実践事例を求めて秋田県信用組合北林理事長を訪問した。

秋田県信用組合がファイナンスを通じて進める社会貢献活動は広く、深い。たとえば、「白神フルーツ黒にんにく」。地元の有力ゼネコン3社が農業法人しらかみファーマーズを設立し、白神山地の広大な耕作放棄地を耕作し、高品質のにんにくを生産する。にんにくを発酵・熟成させ糖度を高め臭いを抑え、より健康にいい付加価値商品としたのが黒にんにくである。同信用組合では法人設立はもとより、補助金の誘致、信用組合若手職員の農業体験研修参加、関係者への販売促進など全面的に支援している。ちなみにネーミングは理事長による。

湯治温泉旅館の開業・運営にも関わる。「ぶなの森玉川温泉湯治館そよ風」は開発機会がほとんどない十和田八幡平国立公

園内で、トータルヘルスケア・ホテルをコンセプトに平成13年に開業した。天然記念物北投石が放つラジウムが自然治療力を高め、心身ともに癒してくれる。東日本大震災などの経営課題を一つずつ解決し、多くの人々から支持される温泉施設として定着してきた。同信用組合は出資者としても参画し、大学医学部や秋田県の研究所との連携を促進するなど、複合的事業として支援している。

こうした事業創造を支援する組織として、同信用組合は「田舎ベンチャービジネスクラブ」を立ち上げている。秋田の地域経済活性化を目指し、交流の場を提供し、事業化の助言・指導などを行う。同クラブに関わる信用組合職員には高い問題意識としっかりしたノウハウ・スキルが求められる。地域に貢献する志と大義を抱き、人間力と使命感を持つ人材育成に努めている。資金とあわせて知恵もきちんと貸すことのできる仕組みをつくりたい。北林理事長の目指



白神山地の広大な農地（右は北林理事長）

秋田県信用組合が社会貢献に努めるのは、強い危機感に基づく。秋田県に関わる社会的指標、経済的指標は厳しい状況を示すものが多い。地域活性化の原動力となるべき都市部は疲弊し農村地域は限界集落化が進み、もはや問題の先送りはできない。人口の減少、とくに次世代をつくる若者の減少は今秋田が抱える諸問題の根源である。

根底に流れる危機意識

すところはどこまでも高い。



東京ビジネスサミット2013に出展

若者は秋田を出たくて出て行っているのではない。秋田に戻りたいと願う若者も数多い。秋田で暮らせる生活の基盤、仕事がないのが一番の原因である。そこで信用組合はファイナンスを通じて起業の機会、就業の機会を拡充するという重要な役割を担う。金融機能だけでなく、事業構築、発展についても惜しまず支援する。

しらかみファーマーズは農業生産にとどまらず食品加工に力を入れ、販路を確立・拡大を進める。「あきたしらかみにんにく」というブランド化を推進し、同地区で生産されているにんにくを積極的に買い取る。商社機能を付加すると、周辺農家はにんにくを安心して生産することができる。生産規模の拡大にも安心して取り組める。

湯治館そよ風と大学等との連携支援も、単に温泉施設にとどまることなく、同温泉施設を拠点に玉川温泉を観光地域としていっそう発展させることを目標とする。訪問頻度と滞在期間を増やすことは温泉施設事業が安定するだけでなく、新たなサービス提供機会を増やし観光収入を増加させ、就業機会、起業機会を増大させることができる。

健康をキーワードに
取り組んでみる

秋田県信用組合の取り組みを、そのまま、にわかになねずることは難しい。長年にわたる努力と蓄積が今日の成果と実績につながっている。

健康であることを求めない社会はない。健康増進に努めることは必ず社会貢献となる。健康に関わる事業を見出し、同事業を実施する企業を応援する。その応援は融資のみならず、事業構築、展開にまで複合的視点に立って行ってもらいたい。

社会貢献は一律でマニュアル化できるものではない。理念、環境、主体、時勢など多くの要素が相互に関連して少しずつ歩みを進める。まずは取り組んでみる。そして一歩ずつ進めてみる。立ち止まり、振り返り、時として後ろに戻る。外連味の無い取り組み姿勢が地域社会を勇気づける。秋田県信用組合の実績がこれを実証している。